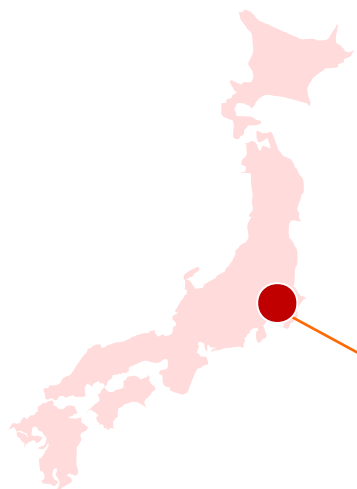




在宅保健師等による支援事業 ～重複・頻回受診者への訪問指導～

埼玉県在宅保健活動者の会「青空会」会員の活動

**埼玉県在宅保健活動者の会「青空会」
事務局:埼玉県国民健康保険団体連合会**



日本初の女医
荻野 吟子



ジャンボこいのぼり



秩父夜祭り



川越の時鐘

○熊谷市

○加須市

○秩父市

○川越市

●さいたま市

○川口市



川口の鋳物

平成13年10月

北部在宅保健師の会が発足

- 「在宅で働く仲間の会をつくって情報収集や勉強会をしたいね。」と北部に居住している、15名の保健師が、「北部在宅保健師の会」をスタートさせました。
- 研修の機会のない在宅保健師等にとって、情報収集、勉強会、親睦を深める楽しみな集いの場として、徐々に仲間も増えていきました。

平成16年1月29日

埼玉県在宅保健活動者の会が発足

- 埼玉県国保連合会を事務局とし「北部在宅保健師の会」と共に、平成15年9月から5回の検討会を重ね、先進県である新潟県の「燈々会」を視察しました。
- 県の国保医療課、健康福祉政策課(当時)、埼玉県看護協会及び国保連合会の協力を得て、平成16年1月29日に会員126名で「埼玉県在宅保健活動者の会」が発足しました。
- 平成17年から県内を東西南北の4ブロックに分け、各2名の活動委員を中心に、ブロックの特性を活かした活動が開始されました。
- 平成20年6月総会で「青空会」という愛称も決定しました。

平成25年度研修会内容

実施時期	参加人数	活動内容
H25.6.21	20	<p>○講 演：糖尿病のいろは ～分かるとこわくない～</p> <p>講 師：日本糖尿病協会 医師</p> <p>○情報提供：国保連合会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療費の状況について ・特定健診実施状況について
H25.11.18	39	<p>○講 演：就学前に大切にしていること ～すべての子ども達のために～</p> <p>講 師：光の家療育センター施設長 医師</p> <p>○講 演：適切な排泄ケアで、心もからだも快適に</p> <p>講 師：ユニ・チャーム 排泄ケア研究所</p>
H26.2.14	29	<p>○講 演：病気は回復過程である ～ナイチンゲール「看護覚書」より～</p> <p>講 師：U.N.Limited プロデューサー</p> <p>○情報提供：花王株式会社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定保健用食品とは ～製品開発と情報発信の視点から～

平成26年度研修会内容

実施時期	参加人数	活動内容
H26.6.19	28	<p>○講 演:効果抜群 ラフターヨガで心とからだをリフレッシュ</p> <p>講 師:インド政府公認・シバナンヨガインストラクター</p> <p>○情報提供:埼玉県から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県のがん対策について ・地域がん登録について
H26.11.19	39	<p><埼玉県がんセンター及び精神医療センター見学></p> <p>○講 演:緩和ケアについて</p> <p>講 師:がんセンター緩和ケア病棟看護師長</p> <p>○講 演:地域連携について</p> <p>講 師:がんセンター地域連携・相談センター看護師</p> <p>○講 演:思春期における疾病と精神医療センターの役割</p> <p>講 師:精神医療センター療養援助部精神保健福祉士</p>
H27.3.13 (予定)	—	<p>○講 演:急展開する糖尿病政策 ～最新の国の動き～</p> <p>講 師:日本医療企画 ヘルスケアソリューション</p> <p>○講 演:糖尿病透析予防 ～行政－医療連携の取組～</p> <p>講 師:県内町保健師</p> <p>○講 演:地域の中で糖尿病を考える ～病院完結型から地域完結型医療の転換へ～</p> <p>講 師:千葉県病院局 千葉県循環器病センター理事</p>

ブロック活動風景

西部ブロック
ホリスティック医療見学



東部ブロック
特養見学・体験



南部ブロック
成年後見勉強会



北部ブロック
勉強会後の交流会



平成22年8月25日
群馬県在宅保健師「さちの会」との交流会



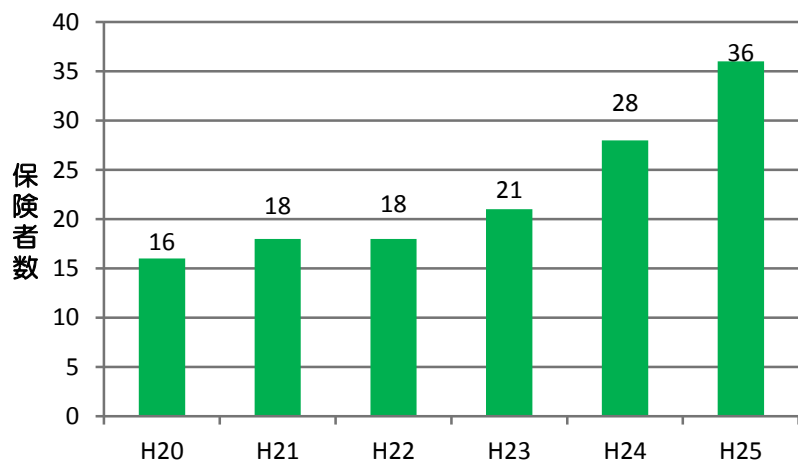
平成26年10月15日
千葉県在宅看護職等の会「まきの会」との交流会



在宅保健師等による支援事業について

在宅保健師等による支援事業の利用状況

希望保険者数の推移



支援内容

- 生活習慣病予防に関する事業
- 特定健診・特定保健指導に関する事業
- 重複・頻回受診者等への指導に関する事業**
- 健康教室等での助言及び指導に関する事業
- 健康まつり等での健康啓発に関する事業

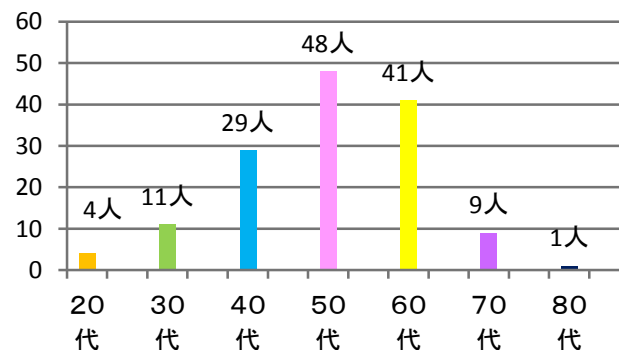
保険者



保険者数・支援回数

H23: 21保険者、延べ193回
H24: 28保険者、延べ267回
H25: 36保険者、延べ298回

会員の年齢構成



重複・頻回受診者等への訪問指導

《目的》

- 平成20年度から25年度、A市において、この事業を実施し、その評価の一つとして医療費に視点をあて医療費適正化を図ることが可能であるか検証した。

《訪問対象者》

- 国民健康保険被保険者のうち医科レセプトが重複（3か月間継続して4枚以上）、頻回（月15回以上）の受診者を抽出し、そこから整形外科疾患で受診している者（25回以上受診している場合は除外しない）、精神疾患で受診している者、定期的に受診が必要な者、保健師が訪問不要とした者、重複・頻回受診者への訪問指導事業で、前年度までに訪問した者を除いた。

《方法》

- 事前に訪問日時、訪問者（在宅の会員氏名）を掲載した案内、健康状態を把握するアンケートを郵送し、返信用封筒を同封して返信してもらう。

《検証について》

- 平成20年4月から平成25年3月診療分の医科入院外レセプトを確認した。

重複・頻回受診者等への訪問指導に着目した理由について

＜国の方針＞

- ・レセプト等により抽出した重複受診者及び頻回受診者等に対して訪問指導等を実施することにより、適正受診の促進を図る取組を推進している。

＜保険者のニーズ＞

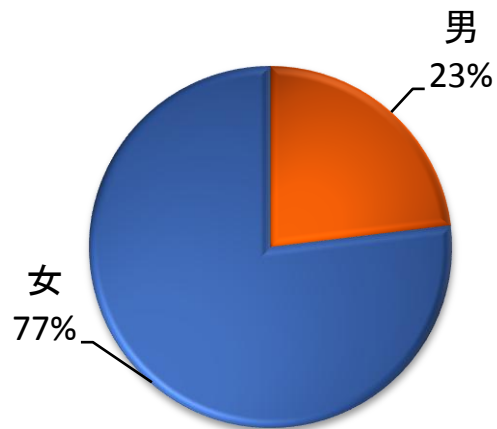
- ・特定健診・特定保健指導は予算化されているが、重複・頻回受診者への訪問指導事業は、予算化されていない中で、実施したくともマンパワーの確保が困難である。
- ・訪問は対象者に喜ばれるけれど、訪問後どのように変化しているか医療費の面からも評価したい。

＜本会＞

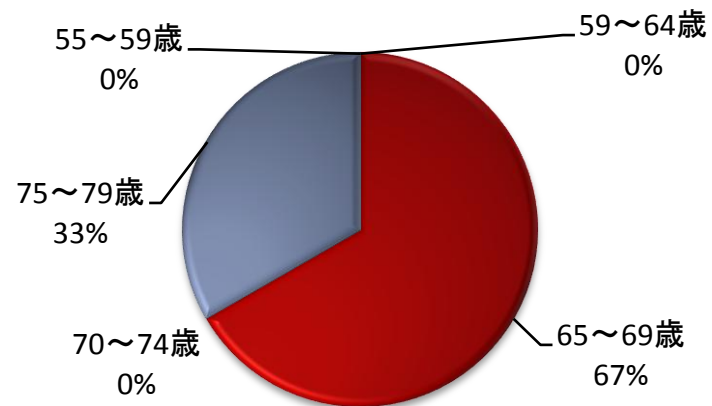
- ・経年で事業を実施しているので、本会としても効果について評価をしたい。
- ・対象者の疾病、障害、受診行動上の問題の要因を見極め、予防活動として必要な支援や対策を検討し保健事業へとつなぎ、対象者のライフステージ及び健康レベルに合わせ、必要な支援を実施する。また家族を含めた支援を実施し、効果的な訪問活動を進める。
- ・訪問指導において、適正な受診・疾病の重症化予防のための日常生活習慣や環境改善への支援、療養方法等の保健指導を実施することにより、健康の保持増進、疾病の早期回復を図り、ひいては医療費の適正化をめざす。

訪問対象者の状況

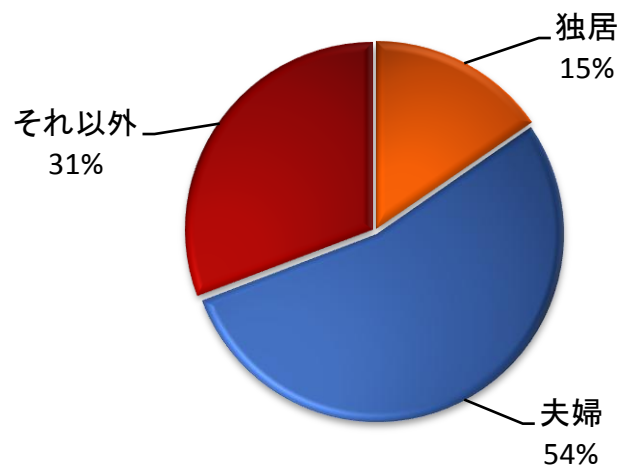
男女比



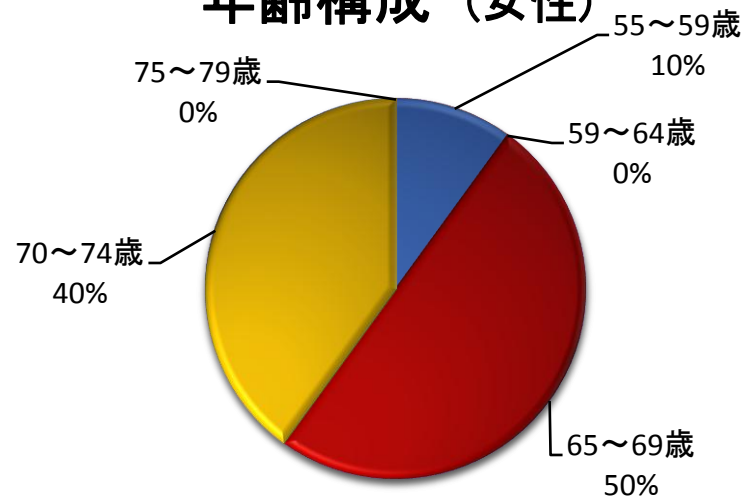
年齢構成（男性）



家族構成



年齢構成（女性）



重複・頻回受診者等への訪問指導に関する事業の評価(改善者数)

- 本会が実施している「在宅保健師等による支援事業」の目的は、保険者が行う保健事業の円滑な実施を図ることである。平成20年から本会が会員を派遣し、実施した重複・頻回受診者等への訪問指導の評価の一例
- 評価対象:平成20年4月～平成25年3月診療分の医科入院外レセプト
- 訪問指導実施前3か月と実施後3か月の平均(レセプト件数、診療実日数、医療費)を比較

《改善者数の評価》

年度	訪問対象者数 (人)	レセプト件数減少者数 (人)	実日数減少者数 (人)	医療費減少者数 (人)
20年度	9	7	6	6
21年度	19	13	14	13
22年度	12	8	7	7
23年度	7	2	2	4
24年度	8	3	6	8

重複・頻回受診者等への訪問指導に関する事業の評価(医療費)

年度	訪問対象者数(人)	差引(訪問後－訪問前)		
		レセプト 件数の 減少数 (件)	実日数の減少(日)	医療費の減少額(円)
20年度	9	－12	－139	－624,700
21年度	19	－51	－192	－473,310
22年度	12	－26	－76	－250,330
23年度	7	－8	－5	－207,410
24年度	8	－32	－66	－545,550

訪問後減少しました

重複・頻回受診者等への訪問指導に関する事業の評価(1人当たり医療費)

年度	訪問前			訪問後			差引		
	レセプト 件数(件)	実日数 (日)	医療費(円)	レセプト 件数(件)	実日数 (日)	医療費(円)	レセプト 件数(件)	実日数(日)	医療費(円)
20年度	7.8	42.2	162,628	6.4	26.8	93,217	-1.3	-15.4	-69,411
21年度	14.3	32.6	123,103	11.6	22.5	98,192	-2.7	-10.1	-24,911
22年度	13.2	24.5	115,178	11.0	18.2	94,318	-2.2	-6.3	-20,861
23年度	10.9	40.7	148,901	9.7	41.4	119,271	-1.1	0.7	-29,630
24年度	10.9	50.1	227,355	6.9	41.9	159,161	-4.0	-8.3	-68,194

結果

- A市において、5年間の訪問前・後3か月の平均数値を比較した結果、レセプト件数25.8件、実日数95.6日、診療費420,260円減少した。
- 各年レセプト件数、実日数、診療費は減少しており、医療費の適正化につながっていた。
- 訪問し、傾聴により安心する者、来てもらってよかったと話す者、自身の生活習慣を振り返り改善方法を尋ねる者等様々であるが、顔と顔が見える事業の効果として、直接対象の現状を把握し、行動変容につなげることができた。

課題

- 今回は、A市について評価したが、重複・頻回受診者訪問指導事業を実施している他市町村においても事業の振り返りを行い、効果検証をすることにより適正な受診・服薬の促進を図る必要性がある。
- 指導の継続性を図るために、対象者の行動変容を支援する体制が必要である。

まとめ

- 医療費の適正化は、保険者の財政にもつながる大切な視点ですが、**必要な医療を受けることは重症化を予防する上でも対象の生活の質を考える上でも重要**である。
- 医療費の減少という効果ばかりではなく、対象者の状況を把握して、行動変容を評価する必要性がある。**(利用可能なサービスや地域活動へとつなげる)**
- 「生活する場」においての療養は、**自分自身の状況を把握し、主治医の指示のもとセルフコントロールし、**できるだけ安心して過ごしながらか、適切な医療を継続できることである。
- 埼玉県は、保険者数が69と多く、保健事業実施に向けた支援も限られた人数で実施している。患者や家族の悩み解消には**傾聴しつつ、対象に合った情報の提供と共感を持って寄り添える在宅保健師等の果たす役割**は大きい。
- 健康づくりは、人と人がつながり、信頼が形成されることから始まる。地域住民の生活背景はなかなか見えづらいため、**地域包括ケアシステムをスムーズにするために連携の強化が重要**であると強く感じた。